

第2回日本中医学会学術総会へのお誘い

関 隆志

東北大学大学院医学系研究科先進漢方治療医学講座

2回日本中医学会学術総会は、「伝統医学は医学のフロンティア——東アジア伝統医学の融合と発展の可能性」をテーマに2012年9月1日・2日、東京（タワーホール船堀）で開催いたします。

生物多様性条約などの天然資源の保護、世界保健機関（WHO）の国際疾病分類（ICD）改定での東アジア伝統医学用語の収載、国際標準化機構（ISO）における伝統医学の国際規格策定など、各国の利害が大きく関連して、伝統医学にかかわる国際的な動きが活発化しています。特に中国・韓国は、伝統医学を自国の財産ととらえ、グローバルビジネス・世界戦略の良い資産として利用していますが、わが国の対応は決して十分とはいえません。一方、医療費の高騰が問題となっている現在、わが国の伝統医学の継承は必要不可欠と思われませんが、生薬の自給率は重量換算で12%にすぎません。重量換算で83%の生薬が中国に依存し、種別では41%の生薬は中国のみから供給されています。輸入生薬はどんどん高騰し、処方箋に対して品質の良いもので調剤すれば健康保険では薬局は赤字になる現状です。

また、わが国では伝統医学教育は緒に就いたばかりです。9割以上の医師が処方しているとされる漢方薬ですが、医学部ないし薬学部でおこなわれている教育コマ数は十分ではありません。鍼灸師の養成の課程で漢方薬が講義されることはほとんどありませんし、医学部のカリキュラムに針灸学を取り入れている大学は少数です。中医学を学ぶチャンスはさらに限られています。わが国で漢方、鍼灸あるいは中医学の臨床をおこなう専門家がお互いに相手の医学を知らないという現状があります。このような状況で、シンポジウム「漢方と中医学の架け橋——中医学で日本漢方症例を読み解く日本漢方の独自性」およびシンポジウム「湯液（漢方）と鍼灸の理論の架け橋——湯液（漢方）の理論と鍼灸学理論の異同とそこから見えてくる新たな中医学の方向性」を開催することは、今後のわが国の伝統医学の進むべき道を考え得る上でも、時宜にかなっているといえます。さらに小ホールでは、「日本に根付いてきた中医鍼灸——日本各地の鍼灸研究会の活動報告」を開催し、わが国で地道に、しかし着実に中医学の鍼灸が受け入れられてきていることをご紹介します。日本、中国の湯液と鍼灸を総合的に学ぶきっかけになればと考えております。

教育の充実、臨床の研鑽のみならず、科学的なエビデンスを構築していく努力は、伝統医学の真価を引き出すことにつながるだけではなく、伝統医学にとどまらず医学全体を前進させるブレークスルーを生み出します。メインテーマ「伝統医学は医学のフロンティア」はそのような意味合いを持ちます。シンポジウム「伝統医学の科学的評価——共同研究のための異業種シーズ交流」では、エビデンス構築を推進するために複数の研究シーズをご紹介します。共同研究などのきっかけを提供したいと考えております。

19,000以上の尊い命を奪った東日本大震災から1年がたちましたが、まだ仮設住宅には

34万人におよぶ人々が暮らしています。津波で流された被災地は、再建のめどが立っていない地域がほとんどです。震災直後には、電気、ガス、水道、ガソリンがなくなり、医薬品も無い状態でした。何も道具がなくてもできる指圧・マッサージは、被災地で大変喜ばれました。今回の震災では、身体の外傷よりも心の傷のケアが必要です。伝統医学が必要とされる場面です。さらに、震災対策に国際協力体制を築くことは今後のわが国には不可欠であり、伝統医学も例外ではありません。この協力体制が、伝統医学の融合と発展にもつながると考えます。シンポジウム「震災において伝統医学ができること——伝統医学を用いた医学・医療・介護の再生」では、海外での事例も参考に、未来に向けて被災地の復興に伝統医学を活用する方策を検討する予定です。

中医学に関心のある方のみならず、伝統医学の今後を真剣に考える多くの方々のご来場をお待ちします。

抄録集 目次

■ 会頭挨拶	1
■ プログラム	7
■ 会頭講演	10
座長：吉富 誠（吉富復陽堂医院院長）	
「震災から未来へ 伝統医学の生きる街づくり」	
関 隆志（東北大学大学院医学系研究科先進漢方治療医学寄附講座講師）	
■ 招待講演	11
座長：酒谷 薫（日本中医学会理事長、日本大学医学部脳外科教授）	
「Ⅱ型糖尿病における中医薬の予防・治療の考察」	
呉 深涛（天津中医薬大学教授）	
■ 招待講演	16
座長：平馬直樹（日本中医学会会長、平馬医院院長）	
「台湾中医薬の現状」	
陳 志芳（台北市中医師公会理事長）	
■ シンポジウム①	17
「科学的エビデンスに基づいた伝統医学に向けて」	
座長：酒谷 薫（日本中医学会理事長、日本大学医学部脳外科教授）	
西本 隆（西本クリニック院長、神戸大学医学部臨床教授）	
(1) 「ハイパースペクトラルカメラによる舌診」	
山本智史（慶應義塾大学医学部 漢方医学センター助教）	
(2) 「身体心理学について」	
春木 豊（早稲田大学名誉教授）	
(3) 「触覚センサの開発」	
尾股定夫（日本大学工学部教授）	
(4) 「心身医学による皮膚疾患の治療—アトピー性皮膚炎を中心に—」	
上田英一郎（大阪医科大学皮膚科准教授）	

■ シンポジウム② 23

「震災において伝統医学ができること—伝統医学を用いた医学・医療・介護の再生」

座長：関 隆志（東北大学大学院医学系研究科先進漢方治療医学寄附講座講師）

(1) 「中医療法の震災時救援活動における活用について」

呉 中朝（中国中医科学院教授）

(2) 「被災者の健康増進に対する四象医学（SCM）の使い方」

チェ・スンフン（韓国韓医学研究院院長）

(3) 「生薬を活かした復興まちづくり—涌谷町の試み」

飯塚 顕（東京医科歯科大学（元外務省職員））

(4) 「被災地復興に生かす総合医療」

桜井 充（参議院議員（心療内科医））

■ シンポジウム③ 31

「漢方と中医学の架け橋—日本漢方の症例や治療法を中医学の目で解釈して、有効性や普遍性を抽出」

座長：安井廣迪（安井医院院長）

(1) 「江戸の医案を解析する」

平馬直樹（日本中医学会会長、平馬医院院長）

(2) 「矢数道明の臨床」

矢数芳英（矢数医院、東京医科大学麻酔科）

(3) 「現代漢方を評価する—大塚敬節の口訣・症例を中医学的に紐解いてみる—」

加島雅之（熊本赤十字病院内科）

(4) 「中医師からみた日本漢方」

戴 昭宇（東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科准教授）

■ シンポジウム④ 37

「湯液（漢方）と鍼灸の理論の架け橋—湯液（漢方）の理論と鍼灸学理論の異同とそこから見えてくる新たな中医学の方向性」

座長：兵頭 明（学校法人後藤学園中医学研究所所長）

王 暁明（帝京平成大学ヒューマンケア学部はり灸学科教授）

(1) 「東北大学病院漢方内科10年間の鍼灸と漢方の統合診療からみえてきたもの」

関 隆志（東北大学大学院医学系研究科先進漢方治療医学寄附講座講師）

- (2) 「対応する疾病・処方・薬性と穴性からみた湯液と鍼灸における「異同」について」
関口善太（中醫堂）
- (3) 「不妊症中医臨床から見た漢方針灸併用の価値」
何 仲涛（徐福中医研究所（株） 所長）
- (4) 「中草薬の生活習慣病予防・治療効果およびそのメカニズムに関する研究」
高 明（武庫川女子大学薬学部東洋医薬学教室）

■ パネルディスカッション・アンケート集計 …………… 43

座長：浅川 要（東京中医鍼灸センター院長）
篠原昭二（明治国際医療大学伝統鍼灸学教授）

■ 一般演題 …………… 51

【特別講演】

座長：馬 驥（寧夏医科大学中医学院）

- (1) 「脳卒中における鍼灸の積極的治療の役割」
曹 永昌（台湾中医臨床医学会 理事長、台北市中医師公会 監事長、鼎昌
中医診所 院長）
- (2) 「大腿骨骨頭壊死における中医治療」
林 文彬（新北市林園中醫診所、台北市聯合醫院中興院區）

【一般演題 I】

座長：西野裕一（漢方誠心堂代表）

- (1) 「A β -40による細胞障害における加味温胆湯の防御効果の解析」
松下道代、劉 園英（北陸大学薬学部 医療薬学 東洋医薬学）
- (2) 「月経前後の諸症状に、芎帰調血飲加減方が著効した3症例」
藤原佳子（高雄病院・京都駅前診療所）
土方康世（東洋堂土方医院）
- (3) 「葛根湯エキス製剤及び湯剤の同等性に関する研究」
小此木明（クラシエ製薬株式会社 漢方研究所）
- (4) 「胃脘痛弁証の検討」
川又正之（梅の木中医学クリニック）

【一般演題Ⅱ】

座長：王 財源（関西医療大学准教授）

(1) 「舌診応用ための簡易方法の試み」

高橋楊子（中医師・上海中医薬大学附属日本校客員教授）

(2) 「Manual鍼刺激が起立負荷時の自律神経調節機能に及ぼす影響—健康成人に対する検討—」

和泉健太郎、大麻陽子（四国医療専門学校）

瀬尾憲正（美術館北通り診療所）

(3) 「がんの在宅医療における鍼灸治療の役割」

福岡豊永（日本医科大学附属病院東洋医学科、天空洞治療室）

高久 俊、平馬直樹、高橋秀実（日本医科大学附属病院東洋医学科）

(4) 「中医薬の教育情報化への模索」

馬 驥、牛 陽（寧夏医科大学中医学院）

馬 娟（東京大学医療情報部）

趙 秋萍（株式会社WE Med）

【ポスター発表】

座長：別府正志（東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター講師）

(1) 「中医周期調節法で体質を改善して自然妊娠の症例」

楊 琰、西野星彦（漢方薬 誠心堂薬局）

(2) 「漢方医学における高齢不妊症の治例」

楊 晶、井上 桜（漢方薬 誠心堂薬局）

(3) 「漢方と鍼灸を併用して妊娠した有効症例」

王 全新、堀田鈴香、岡田陽子（漢方薬 誠心堂薬局）

大会プログラム

9月1日(土)

大ホール(5F)		研修室(4F)	
12:00	受付開始		
13:00	開会式	13:00-	ポスターセッション、展示場 (書籍、医薬品、鍼灸類など)
13:10-14:00	会頭講演 座長：吉富 誠先生(吉富復陽堂医院院長) 関 隆志先生(東北大学大学院医学系研究科先進漢方治療医学寄附講座講師) 『震災から未来へー伝統医学の生きる街づくり』		
14:00-15:00	招待講演 座長：酒谷 薫先生(日本中医学会理事長、日本大学医学部脳外科教授) 呉 深濤先生(天津中医薬大学教授) 『Ⅱ型糖尿病における中医薬の予防・治療の考察』		
15:10-17:40	シンポジウム① 『科学的エビデンスに基づいた伝統医学に向けて』 座長：酒谷 薫先生(日本中医学会理事長、日本大学医学部脳外科教授) 西本 隆先生(西本クリニック院長、神戸大学医学部臨床教授) 山本智史先生(慶應義塾大学医学部 漢方医学センター助教) 「ハイパースペクトラルカメラによる舌診」 春木 豊先生(早稲田大学名誉教授) 「身体心理学について」 尾股定夫先生(日本大学工学部教授) 「触覚センサの開発」 上田英一郎先生(大阪医科大学皮膚科准教授) 「心身医学による皮膚疾患の治療ーアトピー性皮膚炎を中心にー」		
18:00-20:00	懇親会(2F宴会場)		

9月2日(日)

大ホール(5F)	
8:50	受付開始
9:10	招待講演 座長：平馬直樹先生(日本中医学会会長、平馬医院院長)
10:00	陳 志芳先生(台北市中醫師公會理事長) 『台湾中医薬の現状』
10:10	シンポジウム② 『震災において伝統医学ができること—伝統医学を用いた医学・医療・介護の再生』
12:00	座長：関 隆志先生(東北大学大学院医学系研究科先進漢方治療医学寄附講座講師) 呉 中朝先生(中国中医科学院教授) 「中医療法の震災時救援活動における活用について」 チェ・スンフン先生(韓国韓医学研究院院長) 「被災者の健康増進に対する四象医学(SCM)の使い方」 飯塚 顕先生(東京医科歯科大学(元外務省職員)) 「生薬を活かした復興まちづくり—浦谷町の試み」 桜井 充先生(参議院議員(心療内科医)) 「被災地復興に生かす総合医療」
13:00	シンポジウム③ 『漢方と中医学の架け橋—日本漢方の症例や治療法を中医学の目で解釈して、有効性や普遍性を抽出』
15:00	座長：安井廣迪先生(安井医院院長) 平馬直樹先生(日本中医学会会長、平馬医院院長) 「江戸の医案を解析する」 矢数芳英先生(矢数医院、東京医科大学麻酔科) 「矢数道明の臨床」 加島雅之先生(熊本赤十字病院内科) 「現代漢方を評価する—大塚敬節の口訣・症例を中医学的に紐解いてみる—」 戴 昭宇先生(東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科准教授) 「中醫師からみた日本漢方」
15:00	シンポジウム④ 湯液(漢方)と鍼灸の理論の架け橋—湯液(漢方)の理論と鍼灸学理論の異同とそこから見えてくる新たな中医学の方向性
17:00	座長：兵頭 明先生(学校法人後藤学園中医学研究所所長) 王 曉明先生(帝京平成大学ヒューマンケア学部はり灸学科教授) 関 隆志先生(東北大学大学院医学系研究科先進漢方治療医学寄附講座講師) 「東北大学病院漢方内科10年間の鍼灸と漢方の統合診療からみえてきたもの」 関口善太先生(中醫堂) 「対応する疾病・処方・薬性と穴性からみた湯液と鍼灸における「異同」について」 何 仲涛先生(徐福中医研究所(株)所長) 「不妊症中医臨床から見た漢方針灸併用の価値」 高 明先生(武庫川大学薬学部東洋医学教室) 「中草薬の生活習慣病予防・治療効果およびそのメカニズムに関する研究」
17:00	閉会式

9月2日(日)

小ホール(5F)		研修室(4F)	
9:10 12:00	<p>パネルディスカッション</p> <p>『日本に根付いてきた中医鍼灸 —日本各地の中医鍼灸研究会の活動報告』</p> <p>座長：浅川 要先生(東京中医鍼灸センター院長) 篠原 昭二先生(明治国際医療大学伝統鍼灸学教授)</p>	9:10 	<p>ポスターセッション、展示場 (書籍、医薬品、鍼灸類など)</p>
		12:15 12:45	<p>鍼灸症例検討会</p> <p>座長：瀬尾港二先生(アキュサリユート高輪院長)</p>
13:00 	<p>特別講演</p> <p>座長：馬 驥先生(寧夏医科大学中医学院)</p> <p>曹 永昌先生(台湾中医臨床医学会理事長、台北市中醫師公會監事長、鼎昌中医診所院長) 「脳卒中における鍼灸の積極的治療の役割」</p> <p>林 文彬(新北市林園中醫診所、台北市聯合醫院中興院區) 「大腿骨骨頭壊死における中医治療」</p>		
13:30 	<p>一般演題 I</p> <p>座長：西野裕一先生(漢方誠心堂代表)</p> <p>松下道代先生 「Aβ-40による細胞障害における加味温胆湯の防御効果の解析」</p> <p>藤原佳子先生(高雄病院・京都駅前診療所) 「月経前後の諸症状に、芍婦調血飲加減方が著効した3症例」</p> <p>小此木明先生(クラシエ製薬株式会社漢方研究所) 「脳卒中における鍼灸の積極的治療の役割」</p> <p>川又正之先生(梅の木中医学クリニック) 「胃脘痛弁証の検討」</p>		
14:25 	<p>一般演題 II</p> <p>座長：王 財源先生(関西医療大学准教授)</p> <p>高橋楊子先生(中醫師・上海中医薬大学付属日本校客員教授) 「舌診応用ための簡易方法の試み」</p> <p>和泉健太郎先生(四国医療専門学校) 「Manual鍼刺激が起立負荷時の自律神経調節機能に及ぼす影響—健康成人に対する検討—」</p> <p>福岡豊永先生(日本医科大学付属病院東洋医学科、天空洞治療室) 「がんの在宅医療における鍼灸治療の役割」</p> <p>馬 驥先生(寧夏医科大学中医学院) 「中医薬の教育情報化への模索」</p>	15:30 	<p>ポスター発表</p> <p>座長：別府正志先生(東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター講師)</p> <p>楊 琰先生、西野星彦先生(漢方薬誠心堂薬局) 「中医周期調節法で体質を改善して自然妊娠の症例」</p> <p>楊 晶先生、井上 桜先生(漢方薬誠心堂薬局) 「漢方医学における高齢不妊症の治例」</p> <p>王 全新先生、堀田鈴香先生、岡田陽子先生(漢方薬 誠心堂薬局) 「漢方と鍼灸を併用して妊娠した有効症例」</p>